



Title	インターネット研究：仮想大学（Virtual University）について
Author(s)	舟阪, 晃
Citation	大阪外大英米研究. 1997, 22, p. 1-9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99204
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インターネット研究：仮想大学(Virtual University)について

舟 阪 晃

まえがき

『大阪外大英米研究』vol. 21 (1996年) で、仮想大学の一例としてアメリカのフェニックス大学についての朝日新聞の報道を取り上げた。本稿では、解釈が人により違う「仮想大学」という概念の内容を、実例をみながら、検討したい。「仮想大学」には、単に大学の雰囲気の一部を伝えるだけのようなものから、フェニックス大学のように、通常の大学と同じほど組織化された機能を備えているものまで含まれている。インターネット上で情報を収集し、考察を加えることとする。今後、インターネットが、教育面に与えるであろう影響は大きく、なかでも、仮想大学は、夜間大学が本来のにもっている時間的制約を緩和する可能性があり、生涯教育、社会人教育などの観点からも、大いに注目をひくことになる。大学をはじめ、教育機関は、一定の建物で、一定の時間帯に、一定の被教育者に教育を提供するものという発想法はあまりにも固定的で、将来性が感じられない。

インターネットの進化のスピードには驚くべきものがある。したがって、本稿を書くに際して参照したインターネット上のデータは、本稿の印刷ができた段階では、すでに古く、インターネット上でそれが確認できないこともありうると思われる所以、まえもってお断りしておきたい。

キーワードとしては、「仮想大学」(Virtual university)、「オンラインキャンパス」(Online campus)、関連項目として、「遠隔授業」(distance education)などがあげられるであろう。

日本語による「仮想大学」の検索

検索のキーワードは、「仮想」、「大学」とし、NTT directoryやYahoo! Japanで検索した結果(96年8月17日現在)をつぎに示し、考察してみたい。ただし、いまの議論に直接関係がないと思われる項目は省いている。検索は、「仮想大学」ではなく、「仮想」とおよび「大学」がどこかに含まれている対象について行われている。

(1) 仮想空間「流木（ながらぎ）大学」

このサイトの目標はつぎのよう書かれている:[引用]流木(ながらぎ)大学は様々な情報発信・交換の基地としてネット上に存在する仮想の大学です。この「流木大学」はインターネット好きの学生同士で、クラブ活動のようなりで作りました。キャンパスの雰囲気が感じられるような、そんなページを目指しています。[引用おわり] 利用のためには、「入学手続き」が必要で、IDを登録し、「講義」に入るパスワードを受け取ることになる。

上記引用にあるように、学生がクラブ活動のようなりで作成したわけで、「キャンパスの雰囲気」は、ある程度伝わるかもしれないが、それ以上のものではない。現時点に限っていえば、いわば、パソコン通信の電子会議室、BBS、chatなどとあまり変わらないように思える。

(2) 九州大学医学部耳鼻咽喉科ホームページ仮想耳鼻咽喉科病院

ここでは、耳鼻咽喉科で扱われる疾病についての症状、診断、治療を含む専門的な情報が提供されている。家庭向けの医学書などよりはるかに専門的で、詳しい説明が、写真を多用し、与えられている。医療面でのインターネット利用の典型的なデータベースの一例であるといえるが、「仮想大学」そのものとはいえないよう思われる。

ついでながら、本稿の最初に、「遠隔授業」というキーワードを上げたが、上の医学的データベースは、「遠隔治[医]療」の一部を構成するものと考えられる。「遠隔治[医]療」は、現在また将来、医療面でインターネットに期待される重要な機能のひとつといえる。

インターネット研究：仮想大学(Virtual University)について

(3) schMOOzeへオンライン留学

ニューヨーク市大 (CUNY) のHunter Collegeのコンピュータをtelnetで利用する、文字による仮想空間システムである。schMOOzeというのは、そのホストコンピュータの名称であるが、そのうちのMOOは、つぎのように説明されている。MOOは、仮想空間を提供するシステムで、そこでは、複数の人間がリアルタイムでやりとりできる。したがって、役割ゲームなど、対戦型ゲームに使われてきたシステムであるが、最近は、リアルタイムの共同作業にも使われるようになった。その後、MOOの特徴が外国语学習にも有効と考えたCUNYの関係者が、MOOを取り入れて独自のschMOOzeというシステムを設置した。これにより、世界中からくる人たちと、画面上で、文字によるリアルタイムの会話を、24時間無料で楽しむことができるという。間違った発音で恥をかかなくてもいいので、schMOOzeは、“...a virtual school where you have no face to lose. You won't have to blush with shame either.”としている。キャンパスなどの画面もあり、通常の大学と同じように、図書館や管理棟、講義棟などがあるということになっているが、筆者が理解した範囲では、パソコン通信の電子会議室程度のもので、しっかりとしたシステムが完成しているとは思えない。

(4) バーチャル公開講座

静岡県沼津市にある東海大学開発工学部（通信工学、素材工学、生物工学、生体工学）は、毎年、（通常の方式による）公開講座を行ってきたが、今年(1996)から、インターネット上で仮想的に受講できるバーチャル公開講座を試みるという。具体的には、（通常の方式による）公開講座終了後、2週間ほどで、講演の文章、図表、音声、映像などがインターネット上で、いつでも、どこでも、無料で閲覧できる。さらに、受講者が、毎回、電子メールでレポートを提出し、一定の水準に達していると認定された場合は、バーチャル公開講座受講終了証を与えることを検討中であるという。

これは、あくまでも、「公開講座」を、講座終了後、インターネットにのせるわけで、「仮想大学」そのものではないが、逆に、「仮想大学」のなか

舟 阪 晃

の一部にこのようなものが含まれるということはありうるとはいえる。一定の条件を充足した受講生には、終了証が与えられるが、これは「公開講座」だけに関することで、大学の単位と等価値のものでないことはいうまでもない。

Yahoo(US)!で検索したvirtual university

(5) Spectrum Virtual University

無料で、また、安価に講義やワークショップを、インターネットや電話で利用できるオンラインキャンパスである。政府の財政援助は受けないで、非営利団体であるSpectrum Universalにより財政上の基礎が与えられている。

歴史的にみると、このシステムは、1970年代に、電話を使用して、相互交流的 (interactive) な教育プログラムを開発した。その後、コンピュータやモデルが利用できるようになり、1988には、“Digital Professor”という名称のソフトを開発した。さらに、1995年秋には、“Web Class”が開発されたが、これは、homework calendar, class discussion, forum, gradebook, virtual deskなどを含むWWW上の仮想教室のためのソフトである。

学生は、登録用紙を提出すると、e-mailで登録が確認され、Campus Handbookを入手できる。授業は、講義室と、ワークショップで行われる。

たとえば、講義室のひとつである “Exploring the Internet”というクラスでは、インターネットへのアクセス法、e-mailの送受信法、newsgroupの利用法など、基礎的な情報が与えられる。また、Creative Writingのクラスには、Eight Weeks to Creative Writingや、Writing for Publicationという教室がある。Creative Writingのクラスをのぞいてみると、つぎのようなボタンがならんでいる：[Library], [Discussion], [LIVEconferencing], [Submit Homework or Contact Instructor], [Student Gradebook]など。学習に必要な資料、辞書は、Desktop Resourcesのなかのボタンで与えられる。利用者は必要なボタンをクリックすることにより、特定の資料や、辞書にアクセスできるので、個人的に収集または備え付けておく必要はない。Desktop Resourcesには、つぎの

インターネット研究：仮想大学(Virtual University)について

ような辞書、資料が含まれている：Webster's Dictionary, Roget's Thesaurus, Search Engines for Every Occasion, CIA World fact bookなど。また、World Watchというタイトルの下には、つぎのボタンがあり、クリックすることにより最新の情報が入手できる：Today's headlines, World news, Business & Commerce, Science & Technology, Lifestyles, Weather, Los Angeles Times, US News & World Report, Nando Times Global, The Daily News(Canada)など。ちなみに、Weatherをクリックするとアメリカの天気図が現れる。

上記の講義室（クラス）の他に、Focus Groups & Workshopsがあり、ひとつのクラスには、20人から30人の学生が実践的(hands-on) 学習を行う。グループごとにつぎのようなタイトルがあたえられている：Lost in Space(First Steps); FTP & Telnet; In Search of Kids' stuff; The Family Tree Dummy, Not the Directory Tree!; Surfing to Heaven; Mining for Gold on the Usenet Highway; Spectrum Virtual University; Free Software; Fun Things to do on the Net; The Worldwide Chat Connection; Designing the Ultimate Web Pageなど。

日本の「仮想大学」からみると、はるかにシステム化されているが、いわゆる実践的教育が、講習会のようなレベルで提供されているという印象が強い。学位は与えられていないようである。

（6）University of Phoenix

大学についての説明の原文を引用する：The University of Phoenix offers graduate and undergraduate degree programs to working professionals around the world. With 45 campuses and learning centers located throughout the United States, including the Online Degree Program and Center for Distance Education. The University of Phoenix is one of the nation's largest private accredited institutions for business and management. さらに、Online Campusについては、つぎの説明が与えられている：The University of Phoenix Online Campus offers working adults the unparalleled convenience and flexibility of attending classes from your computer keyboard. In small groups of eight to thirteen each, students are discussing issues, sharing ideas, testing theories—essentially enjoying all of the

舟 阪 晃

advantages of an on-campus degree program, with one important exception. No commute![引用終わり]

1987年にはじまったOnline campusには、最初は12人の学生しかいなかつたが、現在、アメリカを含む全世界から、1,500人の登録がある(96年8月現在)。伝統的な対面セミナ形式のクラスで見られる相互交流(interaction)やサポートが可能になるようとする点を、大学の特徴のひとつとしてあげている。

これまでに言及した「仮想大学」と、フェニックス大学の大きく違う点は、下のように、修士号や、学士号を与えるところである：

Bachelor of Science in Business/Administration;

Bachelor of Science in Business/Information;

Bachelor of Information Systems/Management;

Master of Arts in Organizational Management;

Master of Arts in Business Administration/Technology Management .

入学条件としては、通常の大学の条件の他に、Dos、MAC、Windowsが使えるハードと、2400bps以上のモデム、ワープロと表計算のソフトが必要とされる。

学生は、1週間のうち5日授業に参加する。授業は、コースごとに、5、6週間にわたる。多くの学業は、“offline”で行われる。モデムの接続は、データの送受信のときだけで、接続時間は最少になるように注意されている。

授業料は、学期ごとにではなく、履修するコースごとに支払う。修士課程は、コースごとに\$410、学士課程は、\$335である(96年8月現在)。大学のホストコンピュータにアクセスするためのソフトは、\$89。学習に必要な資料などは、Learning Resource Center(電子図書館)を通じて入手できるが、以下のクリック可能な項目およびサイトが列記されている：

Government Information(US Information; International Information)

Business(State Information; Financial Information; Business Publication; Business Pages and Resources)

Statistical Resources

Legal Resources

インターネット研究：仮想大学(Virtual University)について

Copyright Law and Intellectual Property

Computing(Computer Magazines; Operating Systems; Internet Authoring; Internet Home Pages)

Education

Counseling

Nursing(Nursing Resources on the Internet; Nursing Journals Online; Health Related Resources; Virtual Medicine; Government Health Information; The Diabetes Page)

Libraries

General Reference(Newspapers; Dictionaries; Directories; Maps, Weather and Travel)

The Electronic Print Collection(Online Magazines; Online Books; Electronic Journals; Collected Works Online)

Career Information

Religious Studies

最後に、卒業式はサンフランシスコで、一同に会する形で行われる。

また、online campusで講義をすることに興味のあるビジネス、法律、コンピュータの専門家を全世界から求めており、応募様式が用意されている。

フェニックス大学は、通常の大学と同じようにシステム化されているということがわかる。特に、学位が用意されている点、電子図書館が充実している点など、注目される。しかし、一方、大学の特徴のひとつを教官・学生、また、学生間の「相互交流」としているが、前述のように、電話回線の使用を最少限にしようとすると、現実には、困難な問題を含んでいるように思われる。また、このような仮想大学が、社会においてどの程度認知され、評価されているかは、今後検討しなければならない。

仮想大学の条件

これまで見て来たように、「仮想」「大学」というキーワードで、検索す

ると、それぞれ、特に、「大学」の解釈に種々の差があることがわかる。つぎに、筆者が考える「仮想大学」の条件をあげてみたい。

- (a)まず、一番に重要なことは、大学は、学生に正規の単位を与えることができ、さらに、最終的に、学士なり、修士なり、学位を与えることができなければならない。
- (b)つぎに、決まったカリキュラムが提示されていなければならない。
- (c)独自の教官組織、事務組織が必要である。
- (d)学習に必要なデータベースなどのresourcesを電子図書館などで確保する必要がある。
- (e)学生同士、学生と教官との間に相互交流的な(interactive)環境をできるだけ整えることが期待される。

仮想大学の利点

最大の利点は、場所、時間の拘束を排除できるということである。通常の大学の授業の一部を仮想化することによって、柔軟性のある、多様なカリキュラムや時間の制約の少ない学生生活が提供できるものと思われる。なかでも、現行のいわゆる夜間大学、社会人大学は、仮想大学化することによって、多くの問題点のいくつかは解決されるのではないかと期待される。たとえ、完全な仮想化ができないとしても、授業の一部を仮想化するだけでも、教官、学生ともに大きい恩恵をうけることになる。前述のように、フェニックス大学のonline campusは、働きながら学ぶ学生を対象としているわけで、現行の夜間大学を再編成するときに参考になる情報を提供してくれるはずである。さらに、最近話題になっている「生涯教育」という観点からも、仮想大学は大きい可能性を秘めているように思われる。

仮想大学の問題点

- (a)学生に提供すべき膨大な教材や、参考資料としてのデータベースを確保すること、さらに、ホストコンピュータを含むハードの保守・維持は、財

インターネット研究：仮想大学(Virtual University)について

政治的、時間的、労力的に大きい負担になる。

(b)仮想大学は、場所的、時間的拘束から開放されると述べたが、このことは、逆に、大学は、学生に対して、場合によっては、不特定多数の学生に対して、管理、教育すべての面で、どこでも、いつでも対応しなければならないということを意味している。

(c)学生は、ハードウェア、ソフトウェアなどをそろえる必要があるが、その負担は決して小さいとはいえない。

(d)大学と、学生は、電話回線で結ばれることになるが、大学側は、多くの電話回線を確保する必要がある。フェニックス大学では、offlineの仕事が中心で、電話回線の使用時間はできるだけ短縮しようとしているようであるが、相互交流が可能な授業ということになれば、電話線を長時間占拠することになるし、特に日本のように通信料金が高い国では、その負担が問題とされよう。

(e)学生の学業の評価に問題がある。評価用の膨大なソフトが必要である点は別としても、学生が提出したレポート、論文、答案が本人のものかどうか特定できない。

(f)現時点では、仮想大学は、社会的に充分認知され、評価されているとは思えない。

あとがき

本稿では、インターネットのデータを使用して、「仮想大学」という概念を考察した。仮想大学は、やっとその姿が見えてきた段階であるので、今後の発展が期待されるが、基本的には、これまでの時間、空間に全面的に拘束されてきた通常の大学の体制に大きなインパクトを与えるものと考えられる。

(96年10月30日)

参考資料

インターネット上の資料。

